

住宅用消火器の適正な取り扱いについて

皆さんの住宅には消火器が設置されているでしょうか。住宅用火災警報器は条例で義務化されており、大半の住宅が寝室や階段等に設置しているかと思いますが、しかしながら、消火器となると設置している住宅はかなり少ないのではないのでしょうか。消火器は手軽に設置することができ、なおかつ非常に優れた消火能力を持っています。そのため消火器が正しく使われた際の初期消火成功率は70%を超えています。



住宅用消火器の使用期限はおおむね5年です。使用期限が過ぎた消火器は中の薬剤が固まっていたり、本体が腐食した消火器を操作することで破裂したりする危険性があります。この機会に、住宅に設置してある消火器の使用期限を確認してみてください。もし過ぎていた場合は消火器の廃棄処分を専門業者に依頼し、新しい物に交換しましょう。また、ホームセンターなどでも消火器を1本購入につき、1本処分するサービスを行っている店舗もございますので、確認してから来店するようにしましょう。

救急出場状況

(2月分)

交通事故	2件(3人)
一般負傷	15件(13人)
急病	8件(6人)

2月計	25件(22人)
累計	51件(27人)

※()内は搬送人員



占冠支署では消火器の回収や処分は行っておりません。

地域とともに コミュニティ・スクール情報 ~占冠中央小学校~

教育委員会学校教育担当 56-2182

本年度の学校運営協議会の活動について

3月8日(水)、令和4年度第2回学校運営協議会を実施しました。本年度の協議会は全4回で、学校・家庭・地域の三者協働による教育振興活動や小中一貫教育の理解促進をめざした活動を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大による中央小学校の2度にわたる臨時休校のため、協議会の中止を余儀なくされ、熟議を十分に深めることができませんでした。このたびはそのような経緯を受け、次年度以降に取り計らうべき案件について交流を図りました。



~小中一貫教育の「よさ」を知ってほしい~

令和4年度の小中の学校評価を基にした経営の振り返りでは、学校課題として教育活動の周知や小中一貫、主体的な学び、進路情報、地域人材活用等、特に周知の面において改善の必要性と今後の見通しについて丁寧に伝える必要があるとの報告が各校よりありました。それを受け、令和5年度の学校経営においては、小・中学校で統一した教育観を持ち、共同歩調で教育を推進していくこと、9年間の児童生徒の滑らかな成長をサポートするとともに、校種による特質を生かした教育活動を展開すること、それらをさまざまなメディアを通して知っていただくことを主眼に経営を充実させることを申し上げ、承認をいただきました。

熟議では、小中一貫教育について理解を得るための方策について検討していただきました。活動の周知の場や方法、内容について具体化し運動会を始めとするさまざまな行事を共通化することを通して、児童生徒の成長や成果を子どもたちの姿で示すことが重要であるとの共通認識を得ました。

令和5年度においては、6月に予定されている「合同運動会」を皮切りに、小中の連携を強化することを通して、小中一貫の「よさ」が発揮され、子どもたちが健やかに成長するために三者協働による教育振興策の具体化と実践を進めていきたいと考えています。保護者、地域の皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

野生動物対策の状況

農林課林業振興室 野生鳥獣専門員 56-2174

◆全般◆

本村の野生鳥獣対策において、令和4年度は大きな事故もなく経過することができました。目覚ましい進展はありませんでしたが、エゾシカやヒグマへの対応を地道に続け、また、ふるさと祭りやヒグマミーティングを通じて村民の皆さまとともに新しい取り組みもできました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

村は令和5年度も引き続き、野生鳥獣の実態把握と被害軽減に努めます。また、猟区の枠組みを活用し、狩猟や有害鳥獣駆除の公正、安全、安心の向上を図ります。さらに今年度は猟区の更新に向けた準備や、シカの資源利用システムの改善についても取り組みたいと思います。今年度担当する野生鳥獣専門員は浦田です。配置は農林課林業振興室です。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

野生鳥獣専門員とともに有害鳥獣捕獲やヒグマの警戒を行うのが、村の捕獲従事者の皆さんです。今期当初編成は下記のとおりです。必要な技術や資格のほか、社会奉仕の精神と高い規範意識をお持ちの方を求めています。ご関心のある方はお問い合わせください。

高橋勝美さん 小尾雅彦さん 鈴木雅士さん 黒井宏諭さん
 中島辰男さん 有光良次さん 本田光司さん 高橋武志さん
 阿部貴裕さん 橋本陽さん 横出純治さん 遠藤守さん
 浦田剛(担当)



エゾシカ

昼間に道路沿いで姿を見ることが増えてきましたが、その際に性別や大人・子どもを見分けてみるのも一興です。体形や配色など、これからの角がない季節にも使える識別点があり、奥深いものです。



0歳子(左)とメス成獣(右) 大きさだけでなく顔の形も異なる。(二ニウ2月21日)

ヒグマ

冬眠を終えて徐々に穴を出ている模様で、林内では足跡が見られるようになりました。昨秋に酪農大が標識をつけ、日高で冬眠したオス成獣は3月6日ごろに動き出したとのことです。



大小2頭の足跡(双珠別3月18日)

アライグマ

3月に3匹が捕獲されたほか、日中の目撃情報も寄せられています。頻出地点にわなを掛けるほか、出現時に担当が急行すれば直に捕獲できることもありますので、今後とも情報をお寄せください。

こちら駐在所です

占冠駐在所 56-2110

山菜採りによる遭難の防止 ~慣れた山にも隠れた危険が!~

例年、4月に入ると、行者ニンニクやタケノコ等の山菜を求めて入山し、山中で道に迷ったり、沢に転落する事故が発生しています。慣れた山でも、油断による「危険な落とし穴」があることを忘れず、次の点に注意しましょう。



1. 行き先を家族に伝えましょう!

行き先が分からないと捜索開始が遅れます。行き先や帰宅時間を家族に伝えましょう。

2. 無理に山奥に入らないようにしましょう!

慣れた山でも油断は禁物です。自分の体力や体調、天候や時間に合わせた行動をしましょう。

3. 単独での入山は避けましょう!

迷ったり、けがをした場合、1人では救助要請ができません。なるべく複数で出掛けましょう。

4. 目立つ色の服装で入山しましょう!

万が一遭難した場合、ヘリコプターが救助に向かう場合もあります。上空からは、赤色や白色系の服装が目立つため、発見されやすくなります。

5. 携帯電話やホイッスルを持ちましょう!

携帯電話があれば、非常時の連絡手段として助けを求めることができます。また、ホイッスルがあると、音を鳴らして周囲に自分の存在を知らせることができます。